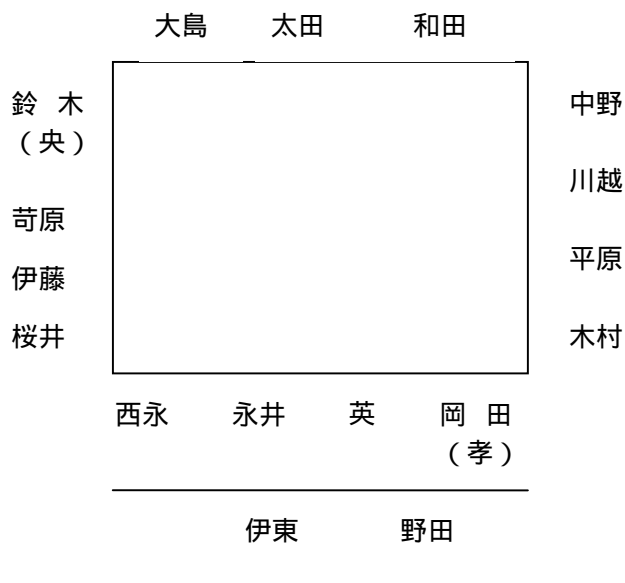


作成日：2010年12月8日

作成：事務局

【席順】



日時	2010年11月22日(月) 18:00~20:30		
場所	東京ステーションコンファレンス 605A		
出席者	<ul style="list-style-type: none"> ・大島 伸一 ・鈴木 央 ・苛原 実 ・太田 秀樹 ・和田 忠志 ・中野 一司 ・川越 正平 ・平原 佐斗司 ・木村 幸博 ・岡田 孝弘 ・英 裕雄 ・永井 康德 ・桜井 隆 ・伊藤 光保 	<ul style="list-style-type: none"> 顧問 東京 千葉 栃木 千葉 鹿児島 千葉 東京 岩手 神奈川 東京 愛媛 兵庫 愛知 	<ul style="list-style-type: none"> 国立長寿医療研究センター 鈴木内科医院 いらはら診療所 おやま城北クリニック あおぞら診療所高知潮江 ナカノ在宅医療クリニック あおぞら診療所(上本郷) 梶原診療所 もりおか往診クリニック オカダ外科医院 新宿ヒロクリニック たんぼぼクリニック さくらいクリニック 内科伊藤医院
陪席	<ul style="list-style-type: none"> ・西永 正典 ・野田 広 ・伊東 政彦 	<ul style="list-style-type: none"> 東京大学高齢社会総合研究機構 国立長寿医療研究センター 国立長寿医療研究センター 	

<p>議題等</p>	<p>1 開会 18:00</p> <p>2 出席世話人 近況・活動報告</p> <p>3 報告事項 事務局 入会状況など その他(取材依頼 講演依頼 協力要請) 教育研修局 IT/コミュニケーション局 調査・研究局 その他 在宅医療助成勇美記念財団助成 ブロック在宅医療推進フォーラム</p> <p>4 議事)ブロック別連絡会 名称に関して)世話人拡大(推薦手続き) 世話人辞退 世話人の交代と新たな世話人の参加について 各都道府県の支部代表者の扱い)他団体からの協力要請について 教育研修局 西永先生(オブザーバー) 東京大学高齢社会総合研究機構 「柏プロジェクト」についての説明 日慢協からのモデル事業への協力 全国薬剤師会・在宅療養支援連絡会からの協力要請)本会の運営方針 方法 会員拡大 ご要望 その他)HP活用 在宅医リストの開示)会費について)世話人会議の開催日について(休日等への配慮)</p> <p>5 その他 次回開催日程(案) 平成23年3月11日(金)*日本在宅医学会前日 大阪</p>
<p>議事等</p>	<p>1 開会 18:00 太田より、平成22年度第2回世話人会議の開会の挨拶が行われた。</p> <p>2 出席世話人 近況・活動報告 和田：高知の壺井先生と連携し、在宅医療の裾野を広げるべく活動を行っている。11月14日には、四国ブロックフォーラムを開催した。 中野：10月31日に九州ブロックを開催し、約250名の参加があった。 川越：東京大学高齢社会総合研究機構の柏プロジェクトの往路グラム作成などへの協力をしている。 平原：同じく、柏プロジェクトのプログラム作成を行っている。詳細は、オブザーバーの西永先生より。東京では、2月11日に東京ブロックフォーラムの開催予定。 木村：10月9日に東北ブロックフォーラムを盛岡で開催した。約350名の参加があった。盛岡市医師会から全国在宅療養支援診療所連絡会への後押しがあり、会員増に繋がる可能性あり。 永井：四国フォーラムでは230名ほどの参加があった。愛媛大学の学生と四国の在宅療養支援診療所にアンケート調査を行った(資料)。年間在宅看取り数が20人以上の在支診は11件(2%)で、四国の在支診が看取った患者の1/3を看取っている。年間看取りゼロの在支診は53%。在宅医療推進の阻害因子は、看取り数が少ない診療所では24時間体制が困難であることから、いかに24時間体制を構築していくかの働きかけが必要である。この資料は、HPへアップ。 西永(オブザーバー)：柏地区で、在支診医師育成のための後押し研修を行う予定。連絡会世話人に協力を得たい、と思い参加。 桜井：1月15日に近畿ブロックフォーラム開催予定。一般医師等へ呼びかける予定。</p>

伊藤：11月14日に中部北陸ブロックフォーラムを開催した。160名ほどの参加があった。静岡・岐阜・愛知の支部ができ、現在三重について相談を進めている。

苛原：有床診療所連合会において、有床診療所が減る中でいかにして成功モデルを作るかといった話し合いがある。そこで、介護と在宅を行う成功モデルとしての講演依頼あり、他有床診療所への在宅参加を勧めていく。

太田：北関東をまとめようと頑張った。群馬は立ち上がったが、栃木はまだ。茨城は、徐々に進んできている。

大島：当連絡会・歯科医師・薬剤師会 3つの在宅医療に関する団体ができ、さらに看護を含めて、四輪駆動で動かしていくという方向性が示されている。在宅医療への大きな流れに乗って、在宅医療を確実に根付かせていく必要がある。専門職能団体として日本の医療を変えていくキャスティングボードを握っている。

英：東京ブロックフォーラムを、2月11日に開催予定。

鈴木（央）：東京都医師会で新田先生を中心として、各支部に在宅医療推進が徹底されてきている。各支部で在宅医療推進のための研究会を行っていて、講師の依頼がきている。大田区・調布市・小平市では、医師会に連絡調整員を配置し、在宅医療の受け皿を調整する事業がモデル事業として開始される。

岡田（孝）：横浜市が中心となり在宅医療推進検討委員会ができ、在宅医・病院勤務医師・ケアマネ等が参加。協議会に発展し、在宅医療が上手くいかない地域をモデルとして事業を展開している。在宅ネット横浜は、在宅医療に興味のある医師が加入している。今後、在宅療養支援診療所連絡会ができれば、在宅ネット横浜と協同して上手くやっていけると思う。

3 報告事項

事務局 入会状況（資料参照）、徐々に増えてきている。

取材依頼・講演依頼・協力要請等がある。事務局判断で対応している。

パンフレットの必要があれば事務局まで。

教育研修局（資料参照）

- ・厚生労働省の老人保健健康増進事業、医療経済研究機構からのアンケートへの協力要請がある。
- ・第1回日本プライマリ・ケア連合学会では、シンポジウム「はじめよう在宅医療2010」の座長を務めた。
- ・日本医師会・厚生労働省共催の第54回社会保険指導者講習会において、講演を行った。
- ・国立長寿研究センターと連携し、多職種協同の研修用DVD作成。「日本在宅医学会生涯教育プログラム」で使用。
- ・在宅医療推進フォーラムの地方版の開催状況。当連絡会・各県訪問看護ステーション連絡協議会・勇美記念財団の共催で全国8箇所にて行うことを企画。
10/9 東北 10/17 関東甲信越（北関東） 10/31 九州 11/3 北海道
11/14 中四国 11/14 中部北陸 1/15 近畿 2/11 東京
- ・大島伸一先生より、インターメディカという教材作成会社での在宅医療教材作成の提案がある。具体的内容はこれから討議される。
- ・「柏プロジェクト（辻哲夫東京大学高齢社会総合研究機構教授）」において、平原先生、川越先生らが開業医向けの研修プログラムを作成中。後ほどオブザーバーの西永先生よりプレゼンテーション。

伊藤：ブロック分け・ブロック名称について、実際の活動範囲と誤差が出てきている。

太田：後ほど討議。

IT/コミュニケーション局（資料参照）

- ・MLは、本日現在、635名の参加で活性化してきている。HPの充実について、リンクを増やすなど徐々に進めていきたい。会員名簿の掲示について、現在は「2005年度版在宅ケアをしてくれるお医者さんがわかる本」を引用している。個人的には、HPへの掲載と会費について検討しても良いのではないかと。後ほど議事にて。

太田：均霑化委員会よりあがった問題点について、厚生労働省に伝えた。困難事項もあるが改善に努める、との言葉を頂いた。

4 議事

）ブロック別連絡会 名称に関して

太田：当初日本医師会のブロック別に準じていたが、実際の活動と誤差を生じている。

和田：厚生局では、支局が存在する。当連絡会でも、例えば関東信越ブロックを、北関東・信越支区等に小分けする。中国四国ブロックを、中国・四国支区等に分けてはどうか。

太田：東海北陸ブロック等、実態に即した地域でまとまっていったらどうか。

伊藤：現在近畿ブロックに属する三重を移動して、東海北陸としてまとまっている。

太田：8ブロックに固執せずに、地域の活動が出来上がったところからまとまっていく事で承認を得る。

）世話人拡大（推薦手続き） 世話人辞退について

太田：現在、いくつかの県支部が出来ているが、各県の代表でも世話人に入っていない方がいる。事務局案としては、各県で中心となって在宅医療をすすめている医師には、世話人に入りたい。あまり、複雑な手続きを得ずに。現在の世話人について、辞退等の相談もある。

伊藤：愛知県支部では、医師会の理事を代表に置いた。伊藤は、事務局長に就いた。県世話人については、代表もしくは事務局長として各県に世話人を置いてはどうか。

木村：東北では、会員数も少なくまだ各県での代表の選出は不可能。

太田：地域でのリーダー（世話人でない人で、地域をまとめた人）を世話人にしては。

永井：県に複数の世話人を置く基準はどうするか。

中野：人口が300万から400万以上の県は複数名、その他は1名でよいのでは。

永井：厚生局の看取り数等の資料を判断基準にしてはどうか。新たに世話人を推薦するには、責任もあるので。

和田：地域フォーラムへの協力の有無等も判断基準になるのでは。

太田：MLも利用して、次期世話人に関して討議していく。

都道府県の連絡会が出来れば、その代表を世話人とする。人口により複数可。次回の世話人会で承認を得て、23年度の世話人を決める。ということで、承認を得る。

）他団体からの協力要請について

厚生労働省の老人保健健康増進事業、医療経済研究機構からのアンケート（資料参照）への協力要請がある。受ける方向で、実際にアンケートの協力を行うかは、個人の判断を。

和田：当連絡会の正会員（在宅療養支援診療所）を対象に、との意向。目的以外には使用しないとの承諾を得た上で、当事務局でタックシールを作成し、お渡しする。

伊藤：経営状況（1ヶ月の利益率）等は、月の変動が大きいので意味のあるデータはないのでは。

和田：まだ、変更可能。削除を依頼している。

太田：回答に関しては個々の判断で行うこととし、当連絡会としては引き受けることで承認を得る。

東京大学高齢社会総合研究機構からの協力要請について

西永：「柏プロジェクト」についての説明（資料参照）

・「柏プロジェクト」での在宅医療総合モデルを構築していくにあたり、一般開業医に向けた研修を行う。その際に、当連絡会の世話人に協力をお願いしたい。

桜井：最近、在宅療養支援診療所の中には、多くの高齢者を同じアパート等に住民を、一度に訪問診療を行い、最期には救急要請している様な悪徳も出てきており、懸念される部分もある。

太田：今後、「柏プロジェクト」での在宅医療総合モデルを検討していく機会もあり、そのような場で現状を伝えたり、助言等も可能である。

平原：在宅医療が進まない要素として、24時間対応がネックであるという仮説の元、それを

	<p>解決することを一番に考えたモデルであり、診療報酬等、その他の問題はまだ考えられていない。今後、様々な問題を取り込み、踏み込んだ議論に展開していく予定である。</p> <p>太田：「柏プロジェクト」について、連絡会として協力していくことで、承認を得る。日本慢性医療協会からの協力要請があった。まだ、具体的ではないが、今後話し合いを持っていく。</p> <p>全国薬剤師会・在宅療養支援連絡会からの協力要請がきている。11月に設立された。今後も、協力し合っていく。</p> <p>）本会の運営方針</p> <p>太田：理事について、世話人を全員理事としてやっていきたいのだが、まだ、世話人も未完成である。今すぐには不可能であることをご理解いただきたい。</p> <p>）HP活用 在宅医リストの開示について</p> <p>和田：HPへ情報を開示することで質の担保も得られるのではないかと考える。HPを見て問い合わせ等が可能になる。</p> <p>中野：看取り数・管理可能な状態等についての項目を考える。今後の入会者については、申し込みフォームで情報を収集しては。</p> <p>太田：開示に関しては賛成。事務量が増幅することが懸念される。</p> <p>英：東京都のシステムは、会員が自らアクセスし直接入力・訂正等を行っている。</p> <p>大島：個人の責任とともに、集団としての質の担保をいかに考えるか。連絡会としての責任及び役割分担も考えていく必要がある。</p> <p>中野：現在のリストはなくして、一から作成か。</p> <p>太田：現在使用のリストは、勇美記念財団に確認した後に廃止し、会員のリストを開示することは承認を得た。まずは、基本情報の開示を進めていく。在宅医療の質の指標等を提案しMLで議論を進め、内容・方法については、次回の議題とする。</p> <p>）会費について</p> <p>太田：運営が厳しい状態ではあるが、現在のところ、会員となることでの特典は増えていない為、会費は据え置くこととする。</p> <p>）世話人会議の開催日について</p> <p>太田：世話人会の開催日が平日では参加が不可能であり、休日開催を希望するという意見が挙がった。昨年、プライマリケア学会・在宅医療推進フォーラム・日本在宅医学会に合わせて開催する、と取り決めている。しばらくは、これらに合わせた開催で合意を得る。</p> <p>5 その他 次回開催日程</p> <p>太田：次回開催日程（案）は、日本在宅医学会の前日大阪にて、平成23年3月11日（金）であるが学会の前日に大阪では、参加できない世話人が多いことから、当日初日に開催で合意。</p> <p>次回開催日程（案） 平成23年3月12日（土）16：30～18：30 大阪</p> <p>閉会</p>
資料	<p>一般社団法人全国在宅療養支援診療所連絡会 平成22年度 第2回世話人会議 議事次第</p> <p>一般社団法人 全国在宅療養支援診療所連絡会 社員名簿</p> <p>入会状況</p> <p>教育研修局より</p> <p>平成22年度厚生労働省 老人保健健康増進等事業「24時間体制の在宅療養に関する調査」</p> <p>IT/コミュニケーション局より</p> <p>四国の在宅療養支援診療所 調査結果</p> <p>柏プロジェクト 説明資料</p> <p>平成22年度 第1回社員総会 議事録</p>
事務局	<p>・岩本 佳代子</p>

